

北のアルプ美術館

2018 **12.23** sun
クリスマストーク&カフェ 10:00 → 12:00

参加費
300yen
お茶&お菓子付

斜里郡斜里町朝日町11-2 Tel.0152-23-4000

寒さが続く日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。このたび、冬休み中（来年2月28日まで）の北のアルプ美術館を特別に開放し、館内探検&トークを楽しむイベントを企画しました。山と自然に関する本や絵画作品に囲まれながら、ゆったりとしたひとときを過ごしませんか？ 持ち寄り歓迎、手ぶら歓迎です。



◀ 10:00- 山崎猛館長のアルプ探検ツアー

北のアルプ美術館の「アルプ」って何？どんな作品が展示してあるの？串田孫一さんってどんな人？…山崎館長のガイドトークを聴きながら、1961年築の趣ある館内を探検します！ アルプ初心者もリピーターさんも一緒に楽しめるツアーです。

10:45- 休憩



◀ 11:00- 長坂有希さんトーク・カフェ

10月に知床の「カムイワッカ湯の滝」をテーマに映像や彫刻作品を発表、現在は北のアルプ美術館そばに滞在しながら次回作を制作中のアーティスト長坂さん。館内の「串田孫一の居間」を開放し、お茶やお菓子を囲みながらのスライド&トークです。



お申し込み受付中です。定員10名前後。

◎予約サイトから（左のQRコードからアクセス）<https://kokucheese.com/event/index/548711>

◎お電話から 中山 090-7516-6786

主催：アーティスト・イン・シリエトク(事務局：シリエトクノート編集室)／北のアルプ美術館

※アーティスト・イン・シリエトクは斜里町民有志によるアート関連企画です

裏面もごらんください



ライオンから始まって灯台へ続く旅

今年の春、構想していた作品をかたちにすべく、雪で閉ざされたカムイワッカ湯の滝を目指すために、斜里を訪問した。その時、初めて北のアルプ美術館に立ち寄った。完全再現されている串田孫一さんの書斎や、本がたくさん並んでいる日当たりの良い廊下や、離れにある山岳文庫の雰囲気には魅了された。そこは何時間でも、なんなら一冬でも居たくなるような空間だった。

でも最も印象的だったのは、山岳文庫で交わした山崎館長との会話だった。知床の自然について話していた私たちは、何かの拍子で灯台について話し始めた。山崎さんにとって灯台はライフワークのテーマの一つであり、長い年月を掛けて日本各地の灯台を巡って写真を撮り、美しい灯台の写真集を出版されている。私たちは世界の七不思議といわれている、エジプトにあるアレキサンドリアの灯台について話した。その灯台について調べたことがあるということ、山崎さんはとても喜んで、次に来るときはゆっくり話を聞かせてほしいと言われた。カムイワッカ湯の滝への旅を控えて気持ちが高揚していたこともあるが、なんだかとても生き生きとした出会いだった。

今年の秋、カムイワッカ湯の滝をテーマにした作品の展示が終わり、次はどうしようと考えたとき、北のアルプ美術館で交わした山崎さんとの会話が頭に浮かんだ。アレキサンドリアの灯台とも関係しているあの作品を仕上げなくてはと思った。そしてその作業を斜里でしたいとも思った。

私は今斜里に滞在しながら、山崎さん夫妻のご厚意で、美術館の裏にある家でその作品の制作をしている。ロンドンの大英博物館で偶然見つけたライオンの彫刻から始まったこの作品は、ギリシャのアテネ、トルコのクニドス、そして斜里に私を導いた。斜里がこの作品の終着点になることを願いながら作業をしているけれど、終わりはまだ見えていない。

今回のトークでは、まだはっきりとした輪郭を持たず日々変わり続けているこの作品、人のゆく先を照らすライオンや灯台について、少しの時間お話ができればと思っています。クリスマス、年の瀬でお忙しい時ですが、お時間が許すようでしたらぜひお越しください。お会いできるのを楽しみにしています。

2018年12月14日

長坂 有希

[長坂 有希 略歴]

1980年大阪府生まれ。現在大阪を拠点に様々な場所を移動しながら活動をしている。人や物、出来事との個人的な遭遇が起点となり、その事象の文化的、歴史的、または科学的背景をリサーチし、自身の記憶や体験を介入させることで、別々に存在しているように見える事柄を繋ぎあわせて新しい関係の可能性を提示する。ストーリーテリングを表現の主軸に置きつつ、彫刻、写真、映像、音、パフォーマンス、書籍などの多様な形態で作品を展開する。個人の活動と平行して、共同プロジェクトへの参加や翻訳・通訳活動を行う。